

北陸として取り組むべき地域力向上策

～ 北陸経済連合会「北陸新幹線敦賀開業を契機とした北陸の地域力向上策の提言」より ～



北陸経済研究所地域開発調査部 吉田 聡子

調査研究部 辻野 秀信

要約

- 2024年3月の北陸新幹線敦賀開業は、2015年の金沢開業に続き、再び北陸圏域に社会的・経済的に大きなインパクトを与えることが期待されている。また、首都圏とのアクセス向上による経済の活性化が、元日に発生した能登半島地震の被災地復興に向けた後押しとなることも期待される。
- 行政、民間企業、個人といったさまざまな主体が復興に向けた取り組みを進めるなかで、改めて北陸が連携して復興に取り組み、一体となって発信していくことの意義も高まっている。
- こうした状況下で、北陸経済連合会が今年5月末に「北陸新幹線敦賀開業を契機とした北陸の地域力向上策の提言」を公表した。本報告は当研究所が作成したもので、具体的な提言内容を紹介しつつ、あらためて北陸での地域力向上のため取り組むべき意義について伝えたいと考えた。提言は「産業」「観光」「暮らし」の3つの側面から現状と課題を概観し、必要な取り組みをとりまとめている。

3側面から整理した地域力向上策

産業面

北陸の産業がツナガル施策

北陸新幹線敦賀開業を機に、北陸域内の人・モノ・情報の行き来が活発化することで、人々の行動範囲の広がり、域内商圏の活性化、域内調達の拡大に資する施策に取り組む。

観光面

北陸の観光がチカヅク施策

北陸新幹線敦賀開業を機に、三県内の移動時間が短縮されることで、一つの県だけでなく観光範囲が北陸三県へと広がるため、北陸での滞在時間増による消費拡大のための施策に取り組む。

暮らし面

暮らしやすさで北陸がヒトツニナル施策

北陸新幹線敦賀開業は三県の一体感を醸成できる好機で、三県一体となった取組みの拡大や、ウェルビーイングを軸に北陸をブランド化することで、新たな価値を創造できる施策に取り組む。

- 全国的にも人口減少と少子高齢化が進んでおり、北陸では特に若者、特に女性の流出が問題となっている。若者にとどまってもらうために、「産業」「観光」「暮らし」の3つの側面において価値を創造し、魅力的な施策を掲げることが重要である。
- 「地域力」は、地域資源の蓄積、地域の自治力、地域への関心の強さに基づくものであり、北陸新幹線敦賀開業がその向上に寄与することが期待される。また、能登半島地震の被災地復興に向け、地域のつながりを強化することにもつながる重要な要素といえる。